

## 令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
東京都北区立王子桜中学校	東京都北区教育委員会	公立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表URL
東京都北区立王子桜中学校	<a href="https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html">https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html</a>

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表URL	学校関係者評価結果の公表URL
東京都北区立王子桜中学校	<a href="https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html">https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html</a>	

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

## <特記事項>

とくになし

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の教育目標は、「共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。」

- ・自主 自ら考え正しく判断し行動する人
- ・創造 先人に学び、未来の文化を創る人
- ・飛翔 視野を広く、高き理想を目指す人

である。海育科においても、各教科における見方・考え方を働かせ、「なぜ、どうして」という疑問を大切にし、一つの「問い」が解決すると同時に新たな疑問が生じる探求型の学習を行った。

海洋と人類の共生を実現するためには、教科を横断した幅広い視点から考えることが必要であり、共生のあり方には答えがないため、一人一人が自分ごととし、対話を重ねながら実現に向けて探究していくことが必要であるが、海洋科に担当できる授業時数には限りがある。短い単元の中で「問い」を発展させていくことに課題がある。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教育課程特例校（海洋教育（海育科））である本校では、1・2学年の理科、社会科でそれぞれ6時間、1学年の総合的な学習において5時間を担当している。1学年においては、宿泊行事である岩井臨海学園の中でも「海との出会い」、「海の科学」、「海の保全・利用」等について多面的な視点から海洋教育を取り入れ、体験的な学習を通してより深い学習へと導くことができている。

しかし、海育科の学習では、海をより身近なものとして捉え、自分ごととして学習を進めていく必要があるが、海に直接触れる機会は1学年の岩井臨海学園のみである。岩井臨海学園不参加の生徒や2学年の生徒について、機会をどのように設定するかが課題である。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

3（1）については、週1回行われるNIE活動において、積極的に海に関する題材を準備し、海に関する諸問題について自分の考えをまとめる時間とリンクさせ補っていく。

3（2）については単元計画のさらなる工夫を図る。2学年（岩井臨海学園不参加の1年生も同様）においては、海洋教育についての体験的な学習の実施が難しいため、画像やインターネット動画の活用や時事問題を取り上げ、海に親しみをもち、海との関わりについて主体的に考えることができるようにしていく。

海洋教育全体について、より高度な専門性が必要である分野と感じている。引き続き区教育委員会の事業であるお茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターとの連携を図りながら取組の充実を図る。